

ム全般の機器を取り扱っており国内外の半導体製造装置及び半導体製造工場向けに広く販売していきたい意向だ。

今回開発したダイヤフラム式流量制御バルブ『MODEL KAFV-100シリーズ』は流量制御するダイヤフラムとバルブボディを樹脂溶着し一体型としたところが特徴。洗浄用途で使われる流量制御バルブは耐薬液性のため高純度フッ素樹脂を素材として使用しているが、同樹脂は加工成型が難しくパーツを別けてオーリングを挟ませたり、嵌め合い形状とすることが一般的だった。ただ、薬液が流れる度にオーリング部分や嵌め合い部分に残渣が溜まり、薬液や純水に溶出する事があり、最終製造物の歩留りを低下させる原因にもなっていた。新製品は部品同士組み合わせるのではなく一体型としたことで残渣が溜まらずクリーンな状態で使用できる。



残渣の残らない『MODEL KAFV-100シリーズ』

シールレス構造で残渣の残らない流量制御バルブを23年7月から販売開始

コフロック（京都府京田辺市、小島望社長）はシールレス構造で残渣の残らない流量制御バルブを開発し2023年7月から販売を開始している。すでに日本、韓国、台湾で特許を取得済み、中国での特許取得も目指している。同社はこのバルブの他、流量制御システ

コフロック

流量制御バルブ

同社取締役新村英展氏は「溶着の難しさからこれまで一体型のバルブは存在しなかった。昨年のセミナーでも多くの方に見て頂けた。当社はバルブだけでなく流量制御に関するシステムを全網羅している。お客様の要望に合わせてオーダーメイドが必要なものを必要な仕様に合わせてご提供できる。これまでになかったバルブで弊社製品を知って頂き、システム全体についても興味を持って頂ければと思っています」とする。

同社は新製品をセミコンジャバ

ン2023東6ホール16720で出展予定。ブースにはこの他、昨年出展した薬液対応且つ温度補正機能付きカルマン渦式流量計や圧力センサなども展示予定である